

EUREKA	地球シミュレータを用いた太陽浮上磁場領域の 大規模シミュレーション	磯部洋明	66
	巨大ブラックホールの形成とクェーサーの形成・進化 —銀河スケールでの角運動量輸送という観点から—	川勝 望	75
	円盤銀河のガス運動と星形成 —中心スターバーストをもつ早期型円盤銀河の CO 観測より— 幸田 仁, 奥田武志		85
天球儀	小笠原の文化と星空—VERA 小笠原観測局から—	官谷幸利	92
	就職：採用する側とされる側のミスマッチ？ —大組織編—	日本天文学会教育委員会	97
書評	宇宙探検すばる望遠鏡	高橋真理	114
雑報	日本天文学会 早川幸男基金による渡航報告書 “13th General Meeting of the European Physical Society —Beyond Einstein, Physics for the 21st Century—”	村田孔孝	115
	日本天文学会 早川幸男基金による渡航報告書 <i>The Origin and Evolution of Cosmic Magnetism</i>	花山秀和	116
寄贈図書リスト			117
月報だより			117
年会			

### 【表紙説明】

野辺山ミリ波干渉計による高分解能 CO 観測から得られた、中心にスターバーストを持つ早期型円盤銀河の分子ガス分布と速度場である。銀河中心部での星形成はしばしば、銀河による遠心力や潮汐力による引き延ばしに比べてガス自己重力が大きくなる、ガスの自己重力崩壊で起きると説明される。しかしこれらの早期型円盤銀河は星形成を持つにもかかわらず、銀河ポテンシャルに比べてガス質量が小さく、重力崩壊を起こすとは考えにくい。観測される輝度温度がガス温度に比べて極端に小さいことから、これら自己重力的に安定なガス円盤にもすでに分子雲が存在することを指摘し、分子雲衝突による星形成トリガメカニズムでの説明を試みる。

(EUREKA「円盤銀河のガス運動と星形成」参照)